椿姫 La Traviata

あらすじ

<第1幕>「乾杯の歌」 © 田中克佳

第1幕 パリのヴィオレッタのサロン

ヴィオレッタが、友人のフローラ、ドビニー侯爵、ドゥフォール男爵、ガストン子爵など、仲間を集めてパーティを開いている。ガストンは、ヴィオレッタにアルフレード・ジェルモンを紹介する。ヴィオレッタにずっと憧れてきたアルフレードは、「酒を汲もう」と歌い、一同もそれに合わせる(**乾杯の歌**)。

ダンスに興じようと皆が隣室に移動する矢先、ヴィオレッタは突然目まいに襲われる。心配したアルフレードが来て、恋心を打ち明ける(**思い出の日から**)。最初受け流していたヴィオレッタだが、彼の気持ちに心を動かされ、翌日の再会を約束する。

パーティの後、もの思いに耽るヴィオレッタ。アルフレードの言葉を思い出し、真実の愛を知った喜びに浸る(**ああ、そはかの人か**)が、すぐ我に返り、「自分は娼婦、自由な快楽に生きるの」と自嘲的に歌う(**花から花へ**)。

第2幕 〈第1場〉パリ郊外の田舎家

＊本演出では屋外で展開される。

アルフレードとヴィオレッタがパリの郊外で幸せな暮らしを始めて3ヶ月が過ぎた。アルフレードは、満ち足りた愛の日々を歌う(**燃える心を**)。しかし、生活のためにヴィオレッタが身の回りの品を切り売りしているとアンニーナから聞かされ、善後策のためパリに向かう。

フローラからのパーティの招待状を見ていたヴィオレッタのもとに、突然アルフレードの父ジョルジョ・ジェルモンが現われる。息子が娼婦にだまされていると思い込んでいた彼は、ヴィオレッタの真剣な愛を知るが、それでもなお、「娘の縁談に差し障っているので、息子と手を切ってくれ」と迫る(**天使のように清らかな娘を**)。拒むヴィオレッタだが、最後はジェルモンに説き伏せられる。

<第2幕>「天使のように清らかな娘を」 © Ken Howard

ジェルモンが去った後、ヴィオレッタはアルフレードに別れの言葉をしたためる。彼女は戻ってきたアルフレードに、抑えがたい思いを抱きながらも、家を出ていく。

追って届けられた別れの手紙を見て驚くアルフ

レードのもとに、ジェルモンが再び現われ、「故郷のプロヴァンスで家族が待っている」と息子を慰める（**プロヴァンスの海と陸**）。しかし、フローラからの招待状を見つけたアルフレードは、自分が捨てられたと思い込み、パーティでヴィオレッタに復讐しようと、飛び出していく。

〈第2場〉パリのフローラのサロン

その晩、ジプシーや闘牛士の歌と踊りがフローラのパーティを盛り上げている。アルフレードが現われ、次いでヴィオレッタがドゥフォール男爵を伴って到着。アルフレードは、カードゲームで男爵と勝負し、大勝ちする。

一同が晩餐の席に向かうと、ヴィオレッタはアルフレードと2人きりになる。ドゥフォール男爵の逆上を怖れたヴィオレッタは、アルフレードに「この場を離れて欲しい」と願い出る。それを男爵への気遣いと勘違いしたアルフレードは、男爵が恋人であることをヴィオレッタに認めるよう強要し、彼女はやむなく、その通りだと嘘をつく。

怒りに駆られて一同を呼び集めたアルフレードは、衆目の中でヴィオレッタを罵り、手にした札束を彼女に投げつける。そこにジェルモンが現れて、息子を厳しく叱り、まわりも皆ヴィオレッタに同情。そして各自の胸の内が同時に歌い上げられる。

第3幕 パリ下町のヴィオレッタの寝室

1ヶ月後、病に伏せるヴィオレッタ。財産もほとんど売りつくしている。医師グランヴィルは「彼女はもう長くもたない」とアンニーナに告げる。ヴィオレッタは「すべてを知ったアルフレードが許しを乞うために向かっている」とのジェルモンからの手紙を読み返す。しかし彼女は「もう遅い」と嘆き、楽しかった日々を思い出す（**さようなら、過ぎ去りし日よ**）。

謝肉祭で盛り上がる街の賑わいが聴こえてくる。そこにアルフレードが到着。再会に感極まりながら、2人は「パリを出て、一緒に暮らそう」と語り合う（**パリを離れて**）。さらにジェルモンもやってきて自身の罪を後悔するが遅かった。ヴィオレッタは急に元気づいた直後、崩れ落ちて息を引き取る。

＜第3幕＞「パリを離れて」
© 田中克佳

登場人物

ヴィオレッタ・ヴァレリー（ソプラノ）
パリの花形高級娼婦。ドゥフォール男爵をパトロンとしていたが、アルフレードと出会い、真実の愛に目覚める。ジェルモンの頼みでアルフレードから身を引くが……。肺を病んで結核に死す、本作の絶対的なヒロイン。第2幕の一部以外は出ずっぱりで、多様な声質と唱法が求められるソプラノ屈指の難役。

アルフレード・ジェルモン（テノール）
金持ちの息子であるプロヴァンスの田舎出の青年。ヴィオレッタを愛し、共に暮らすが、世間知らずと直情型の性格が災いし、悲劇を招く。リリックなテノールの役。

ジョルジョ・ジェルモン（バリトン）
アルフレードの父でプロヴァンスの地主。家名のためヴィオレッタに息子から身を引かせるが……。体面を重んじる田舎紳士だが、苦悩もにじませる。高音域が歌えるバリトンの役。

フローラ・ベルヴォワ（メゾ・ソプラノ）
ヴィオレッタの友人で同業者。

アンニーナ（ソプラノ）
ヴィオレッタの家政婦。終始彼女に尽くす。

ガストン子爵（テノール）
アルフレードの友人。彼をヴィオレッタに紹介。

ドゥフォール男爵（バリトン）
ヴィオレッタの（元）パトロン。

ドビニー侯爵（バス）
フローラのパトロン。

他に、グランヴィル医師（バス）、ヴィオレッタの召使ジュゼッペ（テノール）、フローラの使用人（バリトン）、伝令（バリトン）など

（柴田克彦）